

学校だより

平成20年11月27日発行

広島市立広島特別支援学校

校長 嶽野 壽正

TEL 082-245-0304

E-mail : yougo-s@e.city.hiroshima.jp

FAX 082-245-0349

ホームページ : <http://www.hiroshimayogo.edu.city.hiroshima.jp/>



□ 盛り上がった文化祭

例年より早い初雪だったようですが、今年の冬は寒くなるのでしょうか。いよいよあわただしい師走を迎えますが、皆様お元気でお過ごしのことと存じます。

さて、11月14日、15日に行われました本校の文化祭には、ご来賓をはじめ、保護者や卒業生など多くの方々が来てくださり、おかげさまで盛会裏に終わることができました。模擬店や作品展示、舞台発表と、いずれの場でも子どもたちの学びの成果が手に取るように分かり、充実した文化祭になったと喜んでいきます。



□ 授業公開開催

10月29日、「児童生徒の実態や発達課題に応じた授業づくり」をテーマに掲げ、第3回目の授業公開を開催しました。小学部第2学年及び第5学年の国語科、中学部第2学年の美術科、高等部第1学年の数学科の授業を、教育委員会の先生方や他校の先生方に参観していただき、多くの皆様から多面的にご教示いただくことができ、大変感謝しております。ご教示いただきましたことを今後の実践に活かしていくと共に、今後とも授業の改善・充実に向けて教職員一丸となって取り組んでいきたいと思っております。



□ 避難訓練の「おはし」

去る10月20日、火災を想定した避難訓練が行われました。この避難訓練は、本校の防火・防災計画に基づき計画的に実施しているもので、春に実施した地震に引き続き2回目です。

さて、日本で火事は一年間に6万件、2千人もの人が犠牲になっています。火災が発生したときに炎と共に恐ろしいのが煙です。煙の毒性によって死に至るケースが少なくないからです。火災が起きたとき、煙は毎秒0.3~0.8mの速さで横方向に広がって行くといわれます。混乱なく避難できれば一般的に人は煙より速く移動することができるのです。

そこで、本校では子どもたちに「おさない」、「はしらない」、「しゃべらない」の頭文字を取って「おはし」と指導しています。いかに落ち着いて避難できるかがポイントになります。

今回の避難訓練、子どもたちはとても落ち着いて避難することができました。

□ 視力を測ってもらいました

県立広島中央特別支援学校の藤原隆先生をお招きして、視力健康相談が行われました。

TAC*1 と呼ばれる専門的な視力測定をしたり、光刺激でどれくらい反応があるのかをみたりしました。子どもたちは、TACのカードを興味深くのぞいて楽しそうに検査を受けていました。また、子どもたちの見え方等から学校生活で配慮すべき事項や、教材づくりのポイントなどもアドバイスしていただき、大変参考になりました。



*1 Teller Acuity Card の略

平均照度が等しくなるように設定された無地指標と縞指標を、

被験者の前に提示したときに、無地よりも縞指標を向く反応を利用して、縞指標の縞の間隔を変化させることにより視力を測定する視力検査のこと

□ 新教育課程説明会の実施

平成20年3月28日に小学校及び中学校の学習指導要領が公示され、来年4月から移行措置となり、小学校は平成23年4月1日から、中学校は平成24年4月1日から本格実施となります。これらのことを受けて、本市では、新しい学習指導要領改訂の具体的内容等について説明会が実施されております。本校もこれらの学習指導要領に準じて教育課程を編成・実施しなければならないことから、教務部所属の教員が出席し、その内容について全教職員が報告を受け研修することとしています。更に、本年度内に特別支援学校の学習指導要領が公示されるとも聞いております。関係法令やこれら新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、より適切な教育活動を進めて参りたいと考えています。

各学部主事から



友田小学部主事

最高気温が10度を下回る日が訪れる季節になってきました。体調管理にお気をつけください。

さて、文化祭では小学部の子どもたちも店だし、作品展示、舞台発表とすばらしい表現活動や発表を行いました。地域の方々をはじめ、多くの方々と心あたたまるコミュニケーションがとれて、いまだにその余韻が心地よく残っているところです。小学部高学年による学習発表会でも、子どもたちは大勢の保護者の方々をお迎えする中で、これまでの学習の成果を心をつ一つにして見事に表現することができました。

引き続き、12月には2日から26日（土・日を除く）まで、市役所本庁1階の市民ロビーにて小学部の作品が展示されます。また、1月22日（木）～24日（土）には、アステールプラザにおいて本校と小規模作業所による合同の作品展示会が開かれますが、いずれも、広く市民の方々に本校の子どもたちのがんばりを見ていただけるいい機会になります。今回はスペースの関係上、作品数には限りがありますが、小学部全学年による出品になりました。お近くにお出かけの際にはぜひお寄りください。



網村中学部主事

介護等の体験について

12月2・3日に本年度4回目の介護等の体験があり、本年度は計273名の大学生が、本校でこの体験を行なうこととなります。

この5年間、私は介護等の体験の中で、学生たちに2時間弱の講話をしてまいりました。内容は「見通し」「コミュニケーション」「本校の生徒と仲良くなるために」「本校の教育と専門性」についてです。

学生たちは1日目の朝「どんどころで、どんな子どもたちがいて、何をするんだろう。」と不安そうにやってきます。そんな体験をした午後に「見通しのもてない不安」について話し、子どもたちにスケジュールを伝える大切さや方法等を理解してもらいます。また、「ピカチュウ」としかしゃべってはいけないルールで相手に思いを伝えるゲームを通して、「伝わらないもどかしさ」や「観察する眼」と「推し量る感性」の大切さを体験してもらいます。その後、本校の子どもたちへの具体的な接し方を話すと、ペンを走らせる音が会場中に響き渡ります。真剣そのものです。特に「否定でなく肯定で伝える」（例：「走ったらだめ！」でなく⇒「歩きます。」）は強く心に残るようです。2日目は多くの学生の子どもの接し方が変わっています。「共感」「信頼」「受容」の気持ちをもって子どもたちを理解しようとしたり、また、子どもの目線に合わせて言語だけでなく、様々な方法を使って何とか伝えようとしたり、彼らなりに一生懸命に努力しています。その姿勢から教員として忘れてはならない「ひたむきさ・情熱」＝「心のエネルギーを持ち続けることの大切さ」を毎回、痛感させられます。2日間という短い間ですが、子どもたちもそのことを感じ取っているのではないかと思います。

うれしいことに毎年、この介護等の体験を行なった学生の中から、学生支援ボランティアとして毎週学校に来てくれる方もいます。また、その中から特別支援学校の教員を目指し、採用される学生も出てきています。私たちも負けてはいられません。初心を忘れないように情熱をもって専門家としての力量を高め、人間力を磨き続けていきたいと思えます。子どもたちが「主体性をもって豊かに生きる力」をつけることができるように！

元長高等部主事

本校のシンボルでもあるクスノキが正門にあります。毎朝、その周囲を掃除します。今は黒く熟した小さな果実が落ちています。初夏にはコンクリートを覆い尽くすほど大量に落葉します。調べてみると、そのクスノキは、語源が「薬の木」とする説があるように、防虫剤や医薬品としての能力を秘めているということ。クスノキはどっしりと構えて、黙って毎日、沢山の生徒を迎え、帰りには見送ってくれます。私は、毎日、クスノキは見えていましたが、調べるまで、その詳しい特徴や生育地などは知りませんでした。我が身を振り返って、毎日、生徒と接していますが、そして、毎日、生徒を見ていますが、その能力をうまく引き出しているだろうか。調べて勉強し、より深く理解しようとしているだろうか。これから、校内実習や職場実習はもちろん、日々の生活で、生徒はまた違った一面を

見せてくれると思えます。この度、授業公開があり、授業についての研修を行いました。これからも生徒に秘められている良い面をうまく伸ばしていけるように努めていきたいと思えます。朝の正門でほうきを持って思いました。

